

Mournful Announcement

Ms. Shizu Kobayashi, who served for JFES since its foundation, passed away on the 19th of January, 2012. Distinguished Service Award was presented to recognize her great service only last year, a all JFES directors and members are filled with full of grief on the sad news. She always loved JFES people, and the photos from thnde past symposium were shown during her funeral. We would express our sincere condolences for her family.



創立当初からJFESに貢献されていた小林志津さんが、1年半の闘病の末、さる1月19日、お亡くなりになりました。志津さんのご冥福をお祈りいたします。

Word from JFES President, Kasuhiko Tezuka

突然の悲報にただただ驚き、深い悲しみに包まれております。今期で 18 年目を迎える JFES の活動は、常に志津さんの献身的な働きに支えられていました。シンポジウムにはいつも志津さんの姿があり、参加者や他のスタッフを安心させてくれました。私が Vice President of Technology を務めた 7 年間には、いろいろなことを相談し、助けていただきました。志津さんなしでの JFES を想像することはできません。

一昨年からシンポジウムを欠席され、体調を崩されたことを伺っていましたが、次回のシンポジウムでは元気な姿を見せてくれるだろうと期待していたところへの悲報でした。残念です。これからもずっと JFES 活動を支えていただきたかったです。第 17 回のシンポジウムで志津さんに Distinguished Service Award を差し上げることができたことが、JFES にとっては唯一の慰めです。これまでの志津さんの貢献に感謝するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

Change of the Director

As Mr. Hiraiwa was transferred to oversea, Mr. Hideo Komatsu of INPEX has been appointed to be a Director for JFES Board. Thank you for your contributions, Mr. Hiraiwa, and welcome to the board, Mr. Komatsu.

Director: Takeshi Hiraiwa ⇒ Hideo Komatsu (INPEX)

Invitation to the 79th Chapter Meeting

We are pleased to announce that the forthcoming Chapter Meeting will be held as follows. Those who are interested in attending this meeting are asked to send an e-mail registration at JFES-Registration@slb.com no later than **February 10, 2012**.

Date & Time: Friday, February 17, 2012, 15:30 – 17:30

Venue: Schlumberger Tokyo Office, Seminar Room, 7th Floor

Program:

First talk: メタンハイドレートに対するログの挙動

Presenter: Teddy Nagano (長野 正寛)

-

Second talk: History of Borehole Seismic Acquisition for the last 30 years

Presenter: Tatsuki Endo (遠藤 立樹)

17:30 - 19:30 Icebreaker (1,000 yen)

メタンハイドレートに対するログの挙動: by Teddy Nagano

要旨

Mallik 2L-38 における第二回陸上産出試験では、ガスハイドレート（以降、メタンハイドレートとする）について、坑内検層機器を用いた多角的な測定を行った。日本では、深海における主に砂泥互層に賦存するメタンハイドレートが対象となるが、Mallik における経験は坑内検層結果の挙動を予測・解釈する上で非常に重要である。種々の検層結果は、メタンハイドレートや岩相などに対し、それぞれの測定原理に応じた影響を受ける。比抵抗検層においては、メタンハイドレートの非導電性によって値が高く、音波検層においてはメタンハイドレートに支えられた地層の音波伝播速度が速いという特徴を示す。中性子検層やガンマ線検層は、核磁気共鳴検層と組み合わせる事により、メタンハイドレート胚胎層に共通して見られる特徴が明らかになった。どの検層結果にも、その測定原理に基づく不確定要素が含まれるが、多様な測定原理に基づく検層結果を組み合わせる事で、裸孔検層結果のみを用いても坑井周りのメタンハイドレート胚胎区間を特定するのは難しくない。本発表では、MH-21 が所有するデータを利用し、Mallik での具体例を元にログの挙動を考察する

東京事業所 Tokyo Office



- 東京駅八重洲南口から徒歩5分
Approximately 5 minutes walk from Yaesu exit of Tokyo station
- 東京メトロ京橋駅から3分
Approximately 3 minutes walk from Kyobashi Metro station